

平成27年度 西日本産業貿易コンベンション協会 事業計画

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

【事業運営の理念・方針】

当協会の役割は、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口 国際コンベンションゾーン＝を一体的に運営し、積極的にMICEを推進することにより、産業振興・国際化の推進・にぎわいづくりで北九州市の新成長戦略などの政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献していくことである。この役割を果たすため、次の基本理念に基づき、事業を推進していく。

3つの基本理念

MICE開催の質を高め、産業振興・国際化を推進する。

- ・公益財団法人としての組織力・信用力の活用
- ・MICE研究の深化による専門性とMICE開催誘致の競争力向上
- ・環境変化に対応した主催事業のリニューアル
- ・地域に必要な高品質なコンテンツの提供と情報発信力向上

MICE開催の多様性を高め、にぎわい・活力づくりを展開する。

- ・MICE開催によるビジターズインダストリーの積極的な推進
- ・主催事業のイベント分野への新規参入、イベント営業強化
- ・有効な広報宣伝の実施
- ・他団体、他施設との連携によるエリアマネジメント

施設の付加価値を高め、利用者のニーズに合致した利用環境・サービスを提供する。

- ・小倉駅新幹線口コンベンション施設と西日本総合展示場3施設一体運用
- ・利用者視点からのきめ細かなサービスの提供と向上
- ・ユニバーサルデザイン等による施設・設備機能の改善
- ・ハード、ソフト両面でおもてなしの心の反映

【平成27年度の主な事業目標（指定管理計画（H26～30年度）の27年度目標）】

■来場者数（展示場本館・新館、会議場の3施設合計） ⇒ 75万人以上

※平成26年度と同じく、市政50周年事業等で来場者数が増加した、24、25年度に近い水準を目標

■コンベンション誘致件数（九州規模以上） ⇒ 185件以上

※平成26年度と同じく、25年度の目標180件を上回る水準を目標

【目標達成に向けた、27年度の事業活動】

取組1. 協会主催事業の強化（見本市・展示会事業）

〈181,432千円〉

北九州市の新成長戦略や国・県の産業政策の動向を踏まえながら、
 (1) 産業・貿易振興型の既存事業の充実
 (2) 新事業の探索・開発につながるインキュベーション型事業の開発・推進
 (3) にぎわい創出型事業の開発・推進
 を柱に、協会の主催事業の強化に取り組む。

(1) 産業・貿易振興型の既存事業の充実

平成27年度は「エコテクノ2015 地球環境・エネルギー先端技術展」など、11事業を開催し、地域の産業・貿易の振興に努める。

《平成27年度開催の事業（新規事業を含む）》

事業名	開催期日	入場目標	出展目標
西日本インポートフェア&食メッセ2015	5月2日～6日	50,000人	250社
西日本製造技術イノベーション2015	6月17日	20,000人	60社・団体
第41回ふくおか産業技術振興展	～19日		40社・団体
第37回西日本陶磁器フェスタ	9月19日	50,000人	200社
第23回日本陶芸展九州展	～23日		
エコテクノ2015 (地球環境ソリューション展)	10月7日 ～9日	30,000人	160社・団体
エコテクノ2015 (エネルギー先端技術展)			100社・団体
エコ・ベンチャー・メッセ2015 中小企業テクノフェア in九州2015			40社・団体 50社・機関
P.P.C.2015 第17回西日本国際福祉機器展	10月29日 ～31日	30,000人	130社・団体
SAFETEC2015【新規】 第1回西日本防災、防犯・危機管理展	11月19日 ～21日	20,000人	100社・団体
合計	11事業	200,000人	1,130社・他

《企画内容の充実》

- 『西日本インポートフェア&食メッセ』で、30回記念フェアを開催
 →会場は「インポートエリア」「企画エリア」「食エリア」「イベントエリア」で構成、前回好評であったアフリカ、イタリアを中心にヨーロッパ地域の出展者を増加。
- 『西日本陶磁器フェスタ』で「日本陶芸展九州展」を同時開催
 →全国で最古参の陶磁器展示会として、陶磁器の魅力、文化、芸術を展示・紹介するほか、恒例の「ロールケーキフェスタ」、平成25年度に開催し好評を得た「日本陶芸展九州展」を同時開催。

- 『エコテクノ2015 地球環境・エネルギー先端技術展』の開催
→「エコテクノ」と「再生可能エネルギー先端技術展」について、27年度は一体化し、国内最大規模の地方環境展として開催。

《国際ビジネスの推進》

- 海外の展示場との連携の強化
→海外の展示場との連携を強化し、各自主開催展示会の相互出展、企画開発、将来的な人材交流などに結びつける。

(2) インキュベーション型事業の開発・推進

新たな産業・ビジネスモデルの創造を支援するため、小規模でもテーマ性の高い地域独自の展示会（ソーシャルビジネス、6次産業分野など）を開催する。また、医歯工連携など、様々なテーマのフェアインフェア型事業を行い、新規展示会の開催ニーズなどを探索していく。

《新規事業の展望》

- 『SAFETEC2015、第1回西日本防災・防犯危機管理展』の開催
→平成27年秋に、日刊工業新聞社と共同主催で開催する。最新の防災、減災、防犯及び危機管理に関する製品・技術・サービスを一堂に展示紹介。北九州市と共催で、一般市民の防災意識を啓発するコーナー、セミナーなども開催。
- 『先端農業・植物工場フェア&セミナー2015』を企画展として開催
→エコテクノ2015の地球環境ソリューション展の企画展として、全国の関係団体の協力を仰ぎ、開催。将来的に独立した展示会としての開催を目指し研究を進める。
- 『ロボット総合産業フェア（仮称）』を企画展として開催
→西日本製造技術イノベーション2015にて企画コーナーを設ける。

(3) にぎわい創出型事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客も見込める、メディア等とタイアップしたファミリー・イベントを開催。また、北九州市スタジアムと連携したスポーツ大会の検討などに着手。

《夏休み・冬休みのにぎわいづくり事業》

平成26年度は、
夏休み『プラレール博』『からだのひみつ大冒険』
冬休み『ウルトラマン全員集合』『恐竜ワールド』を開催。



取組2. コンベンション誘致の強化（会議・大会等）	〈79,125千円〉
<p>他都市との誘致競争が激化する中、国際・全国規模の学会・大会などを数多く誘致し、平成27年度の目標（年間185件以上）を達成していくため、</p> <p>(1) 学会・大会のキーパーソン等への積極的な誘致営業 (2) 首都圏 北九州MICE倶楽部の結成及び首都圏交流会の開催 (3) 大学等との連携の推進 (4) 誘致支援事業の充実</p> <p>などを柱に、積極的に、コンベンション誘致に取り組む。</p>	

(1) 学会・大会のキーパーソン等への積極的な誘致営業

地元のキーパーソンとの信頼関係の維持に努めるとともに、地域特性や強みを活かせる分野を中心に、国際会議や大型会議のほか、同業者組合系大会やスポーツ大会等の誘致を推進する。

(2) 首都圏 北九州MICE倶楽部の結成及び首都圏交流会の開催

北九州市及び当協会に対して好意的なキーパーソンを対象に「北九州MICE倶楽部」を結成し、首都圏交流会を開催する。参加したキーパーソンを基に首都圏でのネットワークを拡大していく。

(3) 大学等との連携の推進

北九州市に立地する、九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学、九州歯科大学の4大学との連携や、アジア諸国の主要大学への訪問営業を強化、新たなネットワークを開拓し、より多くの国際会議及び学会の開催につなげる。

(4) 誘致支援事業の充実

効率的な営業体制強化を目的に海外主催者及び国内遠隔地向け「営業用ウェブツールの活用」、北九州市のPRを図るため「会議支援制度の拡大」、国際会議等の誘致のポイントとなる「ユニークベニユーの活用」を図る。

また、「MICE開催助成金の効果的な活用」、「コンベンションボランティアの派遣」などきめ細かな誘致支援活動を行う。

取組3. 貸館利用者の誘致・営業の強化

〈14, 142千円〉

貸館利用者を拡大し、施設稼働率の向上、利用者の増加を図っていくため、

- (1) 既存利用者の定着化及び復活
- (2) 新規利用者の開拓
- (3) 「にぎわいイベント」への取り組み
- (4) コンテンツ会社等とのネットワークの構築
- (5) 国および市の事業への参画

を柱に、誘致営業に取り組む。

(1) 既存利用者の定着化及び復活

過去の展示場の顧客データを分析するとともに、利用頻度が減少している顧客に対し、定期訪問による施設利用の働きかけや集客支援を提案する。

特にリピーター率が高い「自動車ディーラー」や「家電メーカー」、「ハウスメーカー」等に対し営業フォローに努めていく。

(2) 新規利用者の開拓

従来の展示会・見本市の誘致に加え、展示場・会議場での新たな利用形態を模索し、新規分野（コンサートやゲーム大会、握手会等のイベント、試験会場、合同展など）を中心に福岡都市圏や首都圏などでの積極的な営業活動を展開する。



(3) 「にぎわいイベント」への取り組み

主に夏休みや冬休みの対策として、ファミリー向けの「にぎわいイベント」の誘致に取り組む。平成26年度には、夏休みに開催した「からだのひみつ大冒険2014」で、初めての1ヵ月のロングラン開催を行い、市外・県外からも多数の親子連れが訪れ、来場者数は12万人を超えた。継続的に「にぎわいイベント」を開催していくために、会場利用等の条件を整備し、市民から期待される「にぎわいイベント」を構築していく。

(4) コンテンツ会社等とのネットワークの構築

「にぎわいイベント」を成功に導くためには、コンテンツ保有会社やイベント運営会社、テレビ局事業部との緊密な連携が必要であり、そのためにイベント業界とのネットワークを構築する。

さらに全国のコンベンション施設や産業振興団体等と利用情報の交換や共有を図ること、共催・協力に向けた体制を構築していく。

(5) 国および市の事業への参画

国および市の事業に他団体と連携して参画し、展示会等の利用に結びつけなど、新たなアプローチを図る。

取組4. 広報・宣伝、地域連携

〈8, 500千円〉

(1) 広報・宣伝

協会ホームページに加え、情報誌「催事案内」の発行、JR小倉駅のマルチビジョンによるPR、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示などによる広報活動を実施する。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口振興連絡会などとの連携）

小倉駅新幹線口の「にぎわいづくりと魅力アップ」に貢献していくため、「あるあるCity」「漫画ミュージアム」「ギラヴァンツ北九州」などと連携したイベントの開催の検討、「小倉まちづくりミーティング・泡盛ナイト」の開催などの小倉駅新幹線口地区振興連絡会（現在13の企業・団体で構成）の活動に積極的に取り組む。

取組5. お客様満足度の向上（管理・運営）

〈669, 524千円〉

(1) サービスの向上

施設のアクセス改善に向け、「フロアガイド」（新館、本館、会議場の位置関係や各会場までの導線を示した地図）と併せ、さらに案内を充実させるため「デジタル・サイネージ」やフロア・サイン等の導入を検討する。また、Webを活用した利用料金シミュレーションシステム、展示会・学会主催者などのチラシ・冊子作成を支援する「有料プリントサービス」など、ニーズを踏まえた新たなサービスを検討する。

(2) 職員の資質・能力の向上

個人情報保護や情報公開などコンプライアンスの遵守に関する基本研修をはじめ外国人への対応やプレゼンテーション手法など専門研修を強化することにより、施設運営を取り巻く環境変化に適応した信頼性の高い人材育成と能力開発を図る。

(3) 施設・設備の改修等

展示場・会議場を、いつ安全・快適に利用していただけるよう、老朽化している施設・設備・備品などの予防保守や改修・改善に適宜取り組む。

(4) 展示場本館の対応等

本館については耐震診断の調査結果に基づき、工事に向けた具体的な準備を進めるに当たり、顧客等への慎重な配慮を行いながら、工事時期を含め十分な調整を行っていく。また、北九州市スタジアム建設工事に付帯する道路工事等により本館駐車場の運用方法がさらに厳しくなるが、引き続き状況に則した運用対策を検討・実施していく。